

生きてると、不条理なことや、なぜこんな事が起こるのかというようなことがあるが、その答えは今は分からない。答えは未来にある。

3) 国家の祝福も個人の祝福も神が握っている

1) バビロン捕囚の目的

1 回目の捕囚で王によって連れ去られた人たちは、平民のユダヤ人ではなく、いわゆるアッパークラスやロイヤルファミリーの皆様です。

3 王は宦官の長アシュペナズに命じて、イスラエルの人々の中から、王族や貴族を数人選んで連れて来させた。

平民たちもいたでしょうが、主にエリート階層。王族はダビデ王家。貴族はダビデ王家と親類関係の人たち。また右大臣・左大臣みたいな人たち、その子弟たち。ユダ王国のエリート層の若者たちが連れて来られた。

4 それは、その身に何の欠陥もなく、容姿が良く、あらゆる知恵に秀で、知識に通じ、洞察力に富み、王の宮廷に仕えるにふさわしく、また、カルデア人の文学とことばを教えるにふさわしい少年たちであった。

少年たちはヘブライ語でヤレット。15 歳から 20 歳くらいの少年を指す言葉です。少年といっても小学生や幼稚園児ではない。日本なら高校生・大学生のような若者。もうしっかり自分のことが判断できる世代です。その中でもキレッキレの若者たちを 4 人選んで、バビロンの特別教育をさせようとしたんですね。その目的はいったい何でしょう。

どの国も将来というのは若者が担ってます。ユダヤの国から、将来ユダヤを背負って立つような有能な人材をゴツゴツ抜き取ってバビロンに連れて行ったら、ユダの国はどうなりますか。ユダの国の未来を奪うのと同じですよ。おそらく次世代の中心人物になって行くだらう、と思われる人たちをまず全部連れて行くことは、頭で言うなら、前頭葉の切り取りみたいなものでしょう。


そのようにしてユダの国が将来立てないようにし、同時に、連れ去った若者たちの心を首尾よく掴むことができたなら、彼らはバビロンに同化して、その能力をバビロンのために使い、バビロンが強くなる。そんな政治的な意図があって、こういうことをしたんです。

3 年間特別な教育を施そう。何をするのか。カルデア人の文学とことばを教える。カルデア人のことば。話し言葉はアラム語ですが、カルデアの文学・知恵はアッカド語。アッカド語は楔形（くさびがた）文字と象形（しょうけい）文字が混濁している文字です。ほとんどが楔形文字ですが、部分的に象形文字が入っている。お絵描きのアイコンみたいなものも、アッカド語の中に入ってる。

そして文学。日本語の文学のイメージは小説・随筆・詩などですね。

ここでの文学は学問です。アッカド語をマスターさせて、当時 世界最先端の文明を誇っていたバビロン文明の、学問の文献を読ませるようにする。ちょっと当時のバビロンの学問を調べてみたら、いや凄かったですね。

まず彼らが学ぶのは歴史です。バビロンの歴史は前半は神話。後半は当時のオリエント世界。アッシリアが滅ぼされているので、その当時のオリエント世界を知るために、どうしてもマスターしておかなければならない様々な知識がありました。

神話時代のバビロニアの文献は、ギルガメッシュ叙事詩やハムラビ法典など、全部アッカド語です。だから、昔のことを勉強しようと思えば古文書だし、彼らは粘土板に尖筆（せんぴつ/尖った筆）で印を付けて。1・2・3はアッカド語で ここまで覚えました。並べてるだけやんか、みたいなね。

楔形文字と部分的象形文字で出来上がってるんです。

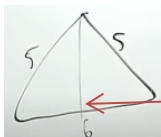
歴史の前半は神話なので、彼らが信じているマルドゥクやネボがいかにか偉大かが、ずーっと書いてあります。必須の歴史・知識がまず教えられる。

それだけでなく、実はバビロンの主要な学問は数学なんです。

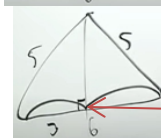
バビロンの数学は60進法。60集まって単位が1コ上がっていく。

これは今も一部使ってますね。秒が60コ集まって1分。分が60コ集まって1時間。円は360度で60で割り切れますね。60進法の名残りだと言われています。

バビロンの粘土板を調べると、当時の数学の問題集や生徒たちの答案が残っています。それによると、なんとピタゴラスが登場して“ピタゴラスの定理”を発見する1000年以上前に、その定理を既に知ってたんですよ。こんな問題があるんです。

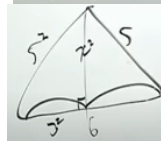


三角形があって5 cm・5 cm・6cm。高さはなんぼでしょう。



高さが分かれば面積が計算できる。

垂線を下ろすと、ここ直角なので3 cm・3 cm。



そしたらピタゴラスの定理。

$$5^2 = 3^2 + X^2. \quad 25 = 9 + X^2. \quad \therefore X = 4.$$

もう嫌になっている人はちょっと…。これ、中学でやったと思うんですけどね。

ピタゴラスが“ピタゴラスの定理”を発見する1000年以上前に彼らは分かっていたし、三次方程式の解法を知っていたんですよ。

なぜこんなに数学に夢中になったのか。精密な計算ができないと、巨大建造物を建てることができなかつたからです。つまり、バビロンの学問の3番目は建築学。

バビロンの町は今は廃墟ですが、造ったのはネブカドネツアル王（BC634-BC562）と、お父さんのナボポラツサル王（BC658-BC605）。

親子2代にわたって、この大きな大きな都を造りました。城壁の高さ100m、幅25m、周囲91km。その城壁の上に50m毎に見張り塔が建てられ、その高さが27m。城壁の中は、ちょうど平城京や平安京のように縦横 碁盤の目のようになっている。

そして、バビロンの都の一番中心のエリアに天文台がありました。**バベルの塔**です。**創世記**の最初にバベルの塔が出て来ますが、ネブカドネツアル王はバベルの塔を再建したんです。

7階建てで高さ90m。5800万個のレンガを積み上げて造ったと言われています。最上階はマルドゥークの神殿。彼らの特殊なホーローのレンガ（ホーローはきれいな色が出ます）、天を表すブルーのレンガでその神殿を飾り、金のテーブルと椅子が置いてありました。つまり、目には見えないけど、マルドゥーク様がここに臨在されているのだという象徴です。

バベルの塔のすぐ麓に、ネブカドネツアル王の宮殿がありました。

その城壁の上にはありとあらゆる樹木が植え付けられていて、まるで空中に庭園が浮かんでいるよう。これを空中庭園と言います。

私は、空中庭園はテンセグリティ構造じゃないかと思うんです。

これお見せしようと思って…置いて来ました。4階に。ですからお家に戻られたら、ぜひ検索していただきたいのですが、レゴという会社がテンセグリティ構造のおもちゃを発売しています。まるで宙に浮いているように見えるおもちゃ。

それ描くとグチャグチャになるのでね、ぜひ調べていただきたいと思います。

ともかく、なぜ数学にのめり込んだかというと必要に迫られて。

彼らは非常に精密な巨大建造物を造っていたのです。

それだけでなく、彼らは天文学についても非常に潤沢な知識を持っていて、ジグラットがあったわけです。バベルの塔は星の観察をするためにも用いられていました。星の運行が人の運命に何らかの影響を与えているのではないかと考えたんです。

これは星占い／占星術の考え方そのもの。

今普通の新聞でも“今日の運勢”と言って、星占いが当たり前のように出て来ます。

私でも自分の星座知ってますよ。ふたご座。ただそれだけのこと。

でも、“星の動きが人間の運命を決めている。神々の見えない力は星の力の中にもある”という考えがバビロンの神学です。

世界中で使われているカレンダーは七曜（しちよう）カレンダーですね。

曜は一文字で“光り輝く天体”という意味があります。

七曜は7つの明るい天体のことなんですね。

日本は江戸時代までは六曜（ろくよう）でした。1週間が6日。

先勝（せんしょう）・友引（ともびき）・先負（せんぷ）・仏滅（ぶつめつ）・大安（たいあん）・赤口（しゃっこう）の6個。

これ、今でも少し大き目の七曜のカレンダーに付いてんねん。

そして今でも、冠婚葬祭にちょっと気にする人、いるんじゃないですか。

「結婚式は大安がいいよ」とか「葬式を友引にやったら、列席者引かれて行くで」とか。何の意味もない。江戸時代まではこのサイクルでグルグル回ってたんですが、明治維新になって、先進国が採用している太陽暦に合わせましよう。

その時世界が採用していた七曜の曜日は「日・月・火・水・木・金・土」。
日曜日は“ひ・にち・だいにち”で太陽の日。月曜日は月の日。火曜日は火星の日。水曜日は水星の日。木曜日は木星の日。金曜日は金星の日。土曜日は土星の日。それぞれの曜（天体）が力を発揮する日が決まっていた。全世界これなんですね。このルーツは、というとバビロンです。
私たちはバビロン人が使っていた曜日の名前方を日本語に翻訳して、「今日は木曜日」とやってるわけですよ。すごい影響力だと思うんですね。

それから医学。バビロンの医学は、特に外科は非常に進んだ技術を持っていました。戦争する時いけにえを屠り、その内臓の状態を見て、どの町を攻めるかを決めて来たんですね。そこから動物の内臓の構造が分かるようになり、類推して人間の内臓についての知識も増えていったんです。一番大切だったのは肝臓です。
また、目の手術は当たり前のようにされていて、手術して失敗したら、執刀者のドクターの指を切り落とすという法律があったそうです。こわ～。

バビロンでは、大通りに病人たちがずらっと並んでいたのですが、病人たちの前を歩いて行く時、かつて罹っていたけど今は治っている人は、自分が罹っていた同じ病気の人に「私はこの薬草で良くなったんだけど」ということで、回復の手助けをしたという記録が残っています。

それから材料工学。ダニエルがいた当時、既にバビロンはガラスを持っていました。鉛が入ったガラスです。強力な武器開発のための素材研究が、日夜繰り広げられていました。

更に生物学。生物の名前でアッカド語に由来するものが今でもあるそうです。調べたけど、私には手が届かないことでした。

これら全部を学んだんです。理系ジャンルの知識もあるし、歴史や神話のような文系の話もあるし、理系も文系も縦断するような形で学んでマスターする。
しかも、文献を読むためにはアッカド語をマスターしていなければならない。その人材として選ばれたのが、ダニエルたち4人のユダヤ人少年でした。彼らなら十分出来そうだと思うせる良い素材だったんですね。
ユダの国の未来を消し、バビロンを強くするために、それをやったんです。

2) 人生に起こる不可解なことの回答は、未来において明らかになる

8 ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚（けが）すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。

ダニエルたちは、バビロンの学問を学ぶことについては異論がありませんでした。

バビロン風の名前を付けられることについても抵抗してません。
シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。前回言いましたね。
五七調なので、その方が覚えやすい。

しかし、食べ物に関しては「どうしても、それは受け付けることができません！」
ダニエルは信仰に立って「王が食べるごちそうで身を汚したくない」と言いました。
ユダヤ人は食べていい物とダメな物が決まっています、**レビ記**にはコーシャが出て来
ます。肉なら何でもいいじゃなく、反芻して（胃を複数持っている）、しかも、ひ
ずめが割れている動物の肉は食べてもいい。だから牛肉はオックケー。でも豚はダメ。
こうもりもダメ。べつに食べたいと思えへんけど。
とにかく、これ食べていい。これ食べたらダメ。

魚もウロコとヒレのない魚類はダメです。もう 20 年近く前のエルサレム、ユダヤ
人はウナギが食べられなかったんです。ところが、左右に 1 枚ずつ小さなウロコが
付いていることが分かってね。そんな食いたいんかと。
うな重旨いじゃないですか。我が家ではあんまり出ないんですけど。
でも、コーシャで禁じられているものって、美味しいものばかりなんです。
僕は寿司を食べる時、ほんま日本人で良かったなと心の底から思いますね。
しかし、彼らはユダヤ人です。それに、たとえ牛肉であっても、血が滴るようなも
のだったかもしれない。ユダヤ人は血を食べません。

王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。

ダニエル書 5 章に、ぶどう酒で乾杯しているバビロン王ベルシャツアルが出て来ま
す。彼はエルサレム神殿から取って来た金の器にぶどう酒を入れて、金・銀・宝
石・木、様々な物で作られた偶像の神を賛美した、と書いてある。
バビロン人が人の手で作った神々（偶像）を礼拝する時に使う、特殊な飲み物とし
てのぶどう酒。

ユダヤ人もぶどう酒を使いましたが、ダニエルは「偶像・異教の礼拝に用いている
物を使うわけにはいかない。それを身体に入れるのは身を汚すことだ」と考え、身
を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。

ここで一つ疑問があるんですね。ダニエルは王族の少年ですが、ダニエルがバビロ
ンに連れて来られた時の王様は誰だったのでしょうか。

**1 ユダの王エホヤキムの治世の第三年に、バビロンの王ネブカドネツアルがエルサ
レムに来て、これを包囲した。**

エホヤキム王。彼は神を畏れる信仰的な王だったか。違います。
彼の時代に**エレミヤ**という預言者がいましたが、あまりにも耳に痛いことを言うも
んだから、**エレミヤ書**の巻物を切り取って、薪にくべて全部燃やしてしまった。
また、エジプトに貢物を献げるために国民に重税を課しながら、自分の宮殿だけは
デラックスに改造しようとした。

神を畏れず、民を顧みず、神も人も恐れない。
非常に愚鈍というか、特に、神に対して罪深い生き方をした王です。

そんな王の時代に生きているダニエルが、なぜこんなに信仰的なんですか。
子供って、大人の影響を受けるんじゃないですか。子供って、社会の影響をものに
受けるんじゃないですか。しかし、全然影響を受けてない。
なぜこんなに信仰に立っているのか。

父エホヤキム王（在位 BC609-BC598）のお父さんはヨシヤ王（在位 BC640-BC609）。
ヨシヤ王は簡単に言うと、ユダ王国のマルチン・ルターみたいな人なんですよ。
わずか8歳で王になり31年間王位にあって、「このままではいかん！」と宗教改
革をやったんです。

16歳くらいの時に創造主である神を求め出し、まず神殿の中の偶像を一掃。
24歳くらいの時に国中の偶像を全部追い出し、26歳の時に「神殿が傾いているじ
ゃないか。修理すべきだ！」と大号令を掛けて修理をしている最中に、神殿の中か
ら律法の書が見つかった。
つまり彼の時代、旧約聖書を読んでいる人はいなかったんですよ。
律法の書（モーセの書）にはこんなことが書いてあったのか！と皆の前で読み上げ
ながら、それに則って大リバイバルというか大改革をして行きました。

しかし、良いことをたくさんやった王なんですけど30代で死んだんです。
エジプトとの戦争であっけなく戦死。それまでの王は悪行の限りを尽くしながら長
生きしている王もいるのに、良いことを一生懸命やっているのに簡単に死んでしま
った。「ちょ、何でやる。良い人に悪い事が起こるのはなぜなんだ」という疑問が
湧きませんか。

年代を照らし合わせていくと、ダニエルはヨシヤ王の宗教改革時代に誕生し、多感
な青春時代を送っています。つまり、ヨシヤ王の良い影響はダニエルに受け継がれ、
ヨシヤ王時代の薫陶が実を結んで、ここで信仰に立っていると言えるんですね。

なんかこう、良いことをしていても全く実を結ばない、何の影響も与えることが出
来てないことを見ると、ちょっとやる気がなくなるというか、もう無駄じゃないか
と思ってしまいがちになるけど、これを見た時、人生の回答は生きている間ではな
く未来にある。

ヨシヤ王は、自分が見ているダニエルがこんなにもまっすぐに育っている、という
ことを見届けることはなかったと思います。
しかし、このダニエルが、やがてバビロン捕囚から帰るということを明確に預言し
ながら、終末預言について解き明かしていくんですね。

ある女医さんが書いていました。高校の時の数学の先生がすごく教え方が上手でね。
中学の時も数学はそんなに嫌いじゃなかった。

だけど、この先生に教えてもらうようになって成績がメキメキ上がって、数学楽しいな。面白いな。ある定期テストで、もう自分でも笑いが出てくるくらいスラスラ解けて、「終了時間まで時間余ってるけど、もういいわ」くらいに完璧。

答案が返って来る時、その数学の先生が彼女をわざわざ教官室に呼びました。「今度の定期テスト、何点取ったと思う？」彼女の中では満点。実感あるから。だけど謙遜して「89点くらいかなあ。取れてるかなあ。」謙遜して89点かと。

32点でした。そして、「キミはよく出来る生徒だけど、ここで重大な勘違いをしている。この勘違いを直したら、キミは無敵の数学受験者になる。自信を失わなくていい。この説明をしなければ、キミはたった1回の32点で数学が嫌いになるかもしれない。それはあまりにももったいないから、こうして特別に呼んだ。勘違いでこんな点数になってるけど、キミは出来る生徒だ。大丈夫。でも、ここは勘違いしているから直そう。」

この説明を聞かなければ、あまりの結果の悪さで数学が嫌いになっていたかもしれない。

そして現役で医学部合格。それから5年ほど経って、高校の同窓会がありました。順調に進んでいることを先生に報告したい。だけど先生は欠席された。この間 癌で亡くなったと。もうショックでした。

それから10年経ちました。ある女性患者の診察で、苗字があの数学の先生と同じ。その地方では大変珍しい苗字なんです。もしかしたら奥様じゃないか。だけど、患者のプライバシーについて突っ込んで話をするのは危険なことで、良くないと思って。単に病気を診る一（いち）ドクターと一（いち）患者として、事務的に淡々と話を進めてたら、患者さんの方から「もしかしたら〇〇さんですか」と旧姓で呼んでくれた。

「はい、そうです。」「主人の教え子でしたよね。主人はいつも、クラス写真のあなたを私に見せてたんです。『今まで色んな生徒を教えて来たけど、あんなに出来る子はいなかった。あんな子の数学教師になれるなんて、教師冥利に尽きる』と、いつもあなたを誇りに思っていました。」

私が知らないところで、私のことを思って、「きっといい医者になるよ」とずっと思い続けていたことを聞いた時、挨拶にも行かずにほったらかしにして、死に目にも会えず、普段そんなことすっかり忘れていたという自分が情けなくなった。

同時に、私は人間に対して非常に臆病なところがあって、人の心にポーーンと入って行けないけど、勇気を出して思い切って訪ねてみないと、いい出会いを失くすかもしれない。

この時も、奥様が思い切って呼び掛けてくださったから話をする事ができた。自分の中にある“人に対する臆病さ”を乗り越えて行く決心をくれたのは、あの先生の私への熱意だった。

それを読みながら考えました。ヨシヤ王の思いは、彼の時代にはだれにも分からなかったけど、次の世代でちゃんと実を結んでいた。くさらずに『ざっくり』を続けてまいりたいと思います。いつかは届く日が来るだろうと信じております。

3) 国家の祝福も個人の祝福も、創造主である神によって決まる

ダニエル書 1 章には 3 回だけ、神・主が主語になっている文章があります。後は全部 “人” が主語。

①2 主は、ユダの王エホヤキムと、神の宮の器の一部を彼の手に渡された。

ユダの王エホヤキムが負けてしまったのは、バビロンの王が強いからじゃない。主が渡したから。主がユダを守らなければ、ユダがどれだけ軍備やっても、もうおしまい。国家の命運は、歴史の背後でそれをコントロールしている神の手にある。だから主を畏れよ。主との関係を正せと言っているんです。

②9 神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。

宦官の長に「王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で、身を汚さないようにさせてください」言うって、ものすごく失礼なことですよ。捕囚されたんだから、普通は奴隷扱いされても文句言えない。王が食べる物をもらえるというのは、すごい親切心から出てること。それを「汚れるから食べれません」と言うのはね、失礼なやっちゃな（奴やな）と。でも、ダニエルはそのように言ったんですね。

10 宦官の長はダニエルに言った。「私は、あなたがたの食べ物と飲み物を定めた王を恐れている。

定めたはヘブライ語で “完全に定めた” という意味です。強調の “定めた！”。「このメニューを食わすんやぞおっ！」とネブカドネツアル王様が決めたんですよ。それを「口に合わない。汚れてしまいます」言うて食べへんて、それは…それは…。私は王を恐れている。

次回言いますが、ネブカドネツアルって、めっちゃ怖い。ある時、夢見たんです。「俺がどんな夢見たか当てろ！当てられへんかったら手足バラバラにして、おまえらの家はゴミの家にする」と書いてある。そんなん、むちゃぶりというか。私、昨日夢見たんですけど分かりますか。だれも当てられないじゃないですか。当てられへんかったら手足バラバラにするって、ほんまにやる人ですよ。だから、アシュペナズの恐れは正しい恐れです。「これをあてがって食べさせるように、おまえに言ったよなっ！なのに、しなかったのかっ！」首パーン飛びますよ。ダニエルに好意的ですが、「この願いだけは、ちょっと聞くわけにいかんわ。首飛ばし。」

皆さんならどうしますか。元々悩みもしませんか？

ダニエルは「このまま『そこをなんとか』言うてもあかん」と分かったんですね。そこで、別の人に話を持って行きます。

11 **そこでダニエルは、宦官の長がダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤのために任命した世話役に言った。**

宦官の長に言っても無理。なので、直接自分たちに関わっている世話役に言った。

12 **「どうか十日間、しもべたちを試してください。私たちに野菜を与えて食べさせ、水を与えて飲ませてください。」**

野菜はゼロイーム。地面に種を蒔いて収穫できるものすべてを指します。だから、青い野菜だけじゃない。青い野菜も、大麦や小麦の穀物も、大豆やひよこ豆のような豆類も蛋白質がありますからね。地から収穫できるすべての物がゼロイーム。複数形。

それと水で結構です。十日間試してください。お試し期間。

「10日経って、私たちが他の若者と比べてガリガリやとか、血色悪かったら、それも仕方ない。試してください！」それやったら異論ない。やってみた。

15 **十日が終わると、彼らは、王が食べるごちそうを食べているどの少年よりも顔色が良く、からだつきも良かった。**

これはですね、肉食アカンという結論を導き出してはいけない箇所です。

時々そういう人いますよ。「だから野菜中心がいいんだ」って。

ここはね、神への従順の結果のことを語っていて、どんな物を食べるかを定める箇所ではないので、僕はこれからも肉を食べ続けます。特に牛タンが大好きなので、これからも食べ続けたいと思いますが、世話役はもう異論ないですよ。

16 **そこで世話役は、彼らが食べるはずだったごちそうと飲むはずだったぶどう酒を取り下げ、彼らに野菜を与えることにした。**

ごちそうとぶどう酒の予算で野菜と水だけでいいんだから、彼はずいぶん儲かったと思います。何の異論もない。わずかなものでダニエル健康。信仰的に納得。そして彼も儲かって。「それで行きましょう。」そうして3年間が始まった。

この信仰に対して、神が主語の文章の3回目。

③17 **神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を理解する力と、知恵を授けられた。ダニエルは、すべての幻と夢を解くことができた。**

元々賢い人たちです。だけど、生まれつきの賢さとは別に、この信仰に依って、神が後天的に授けた能力があるんですね。あらゆる知恵、文学を理解する力と、ダニエルには夢を解き明かす特別な能力。

このことのゆえに、**ダニエル書**が大きく展開していくのです。
皆さん、創造主である神は生きて働く方です。

昨日、ゴスペルバンド『ナイト de ライト』のドラマーの方が、話がしたいと呼んでくださったので、梅田のスターバックスで待ち合わせしたんですけど、いつまで待っても来ない。なんだ?! と思ってたら、私が間違ってたというね。すいませんということで、行ったんですけど。

彼はお父さんが熊本のクリスチャン/牧師で、北海道に開拓に出たそうです。
5人兄弟の末っ子。「いつキリストを信じて洗礼を受けたんですか。」「小学3年生か4年生か、3年か4年…か。」「覚えてないんですか。」「ちゃらんぽらんで受けたんですね。明確に「そうだ!」で受けたというより「だいた〜い(大体)」みたいな。

「私が本当に神と出会ったのは22歳の時です。洗礼は受けてたけど、本当の意味では救われていなかったと思います。」
22歳でアメリカでドラムの修行していた時、日本人が周りにいない中で聖書を開いたら、ある聖書のことばが目に飛び込んで来た。
「『主よ、主よ』と言う者がみな神の国に入るんじゃない。」

私はクリスチャンの家に育って、小さい時から「主よ、イエス様、神様」言ってるけど、確かに色んな知識はたっぷり持っているけど、この方のことを知らない。言ってみたら、大好きな芸能人のことを Wikipedia で調べ尽くしているファンが、この芸能人の好物は〇〇で、ペットのウサギの名前は△△で、好きな色の靴は××で、と色んなことを知っているけど、交流したことは1回もない、というのに似ている。

お勉強として、神とはいったい何なのか、キリストはどんな方なのかを知っているかもしれないが、生きたキリストを経験したことがない。
知識は持っていても関係を持ってない。私の中に、この方と関係を結ぶというそんな力は無い。私には決定的に何かが欠けている。
その時「神よ、憐れんでください!」それが、主である神と接点を持った最初ではなかったか。そこから人生が大きく好転して行くんです。

私も初心者時代のことを考えた時、ここまですごくはないんですが、いくつか経験があります。私は大学を卒業して、ある会社に営業マンとして就職しました。
この集会は、その当時から毎週木曜日夜に聖書メッセージの集いがあったのですが、ある時**ルカの福音書**のビデオを使って、シリーズで特別集会をやる。
周りに5万枚くらいトラクト(チラシ)を撒いて。
私もメッセンジャーの一員に入れていただいたのです。

就職して1年ほどの時で、私がメッセージを担当する木曜日は、とにかく残業を言われないうちに、もう“用事聞かないモード”のオーラを出す。

「俺は今日は忙しい！絶対帰るからなっ！なんも言わんといてくれ！！」みたいな。5時半までは定時なのでいないといけないけど、5時半に電話かかって来ても取らない！「（相手の指名で）あ、高原ですか。」でも「帰ります！」と外に出るみたいな。それで、なんとか間に合うように帰っていたんです。

その週の木曜日に私のメッセージ担当が決まっていたのですが、今では懐かしい器械のファックスが事務所にあって、器械がキ～カカカキ～とか言いながら紙を吐くのです。月曜日に出社してファックスを読むと、「社長が今週木曜日に特別営業会議で大阪に行くので、その日は営業・外回りをやめて待機するように。営業会議が終わったアフターファイブには、社長自らヒルトンホテルでフランス料理のフルコース・ディナーを振る舞いたいと仰っているので、全員開けておくように。」

「しまった！どうしよう…。」木曜日、代わってもらうことも出来ました。でも、こう考えたんですね。神は全知全能だから、今週木曜日、私が聖書メッセージするというをご存知の上で、社長に遅くまで付き合いというのは…。これはちょっと信仰に立って、言ってみてもいいんじゃないか。

それで、集会の当時の責任者に「こんな状態になってるんです。うちの社長はオーナー社長で、逆らって首ビュンビュン飛ぶところがあるんですけど、どうしたもんでしょう。」「高原兄、殺されへんて。」あ、そうやと思ってね。一見無責任な励ましにも聞こえる。「俺、知らんし」みたいな。そうじゃなくて、これは非常識なことなのか、信仰に基いていることなのか、自分の中で確信がなかったので一番言っしてほしい言葉でもあったんです。よし！と。

直接社長にそんなことを言うのはあまりにも、まだ入って1年ちょっとしか経っていないし。それで直属の上司に「あのう、仕事が全部はけた後は、どうしても行かねばならない先約がありまして。すみません。ちょっとそこを、おいとまさせていただきます。」そしたら支店長が「そんな恐ろしいことは自分で言え。」何のための上司やねんと。

私はですね、もう苦しくて苦しくて、いつ言おうか…と。木曜日になったんですよ。いつもは勢いよく「おはよう！」と入るのですが、その日は重くて。いつ言おう…。いつ言おう…。午後から社長と後継者の息子さんが来られて。「営業、ここはこうして、こうやって。」「はい。はい。はい。」3時半頃に「ちょっとお茶でもしよっか。」みんなで喫茶店にゾロゾロ行ってね。社長の若き日の武勇伝とかを聞くことになったのですが、言うんやったら今やなど。

「社長、実は前々から決まっていた、どうしても外せない約束事がありまして、ほんとに失礼なことだと分かってるんですが、私、今日ディナー、ご一緒に行けないんです。申し訳ありません。」そしたら「その抜けられない用事というのはキリストの用事か。」よう分かってるなあ思っ。

「はい、そうです。」「そうか。どうしても行かなあかんのか。」「どうしても行かなあかんのです。」

「でも、私はどうしても君を連れて行きたい。どうしたらいい？」って振られたんですよ。どうしたらいい…。「(頭下げて) 分かりません。」

「今4時か。ここで会社を閉めてすぐ出たら、ディナーもできるし、教会も行けるじゃないか。そうすればいい。」そら、アンタが社長やから言える提案であって、私が提案できるような話じゃない。

江坂(えさか)に会社があって、当時開業して間がないヒルトンホテルが西梅田にあって、地下鉄御堂筋(みどうすじ)線に乗ったら15分もあれば余裕で着くのに、何を思ったかタクシーで行こう言い出したんですよ。あかん。タクシーは絶対混む。思ったんですけど「おい、タクシー呼んで来い。」何台も車連ねて。案の定大渋滞。出発は4時半過ぎてたかな。ホテルに着いたらもう6時前。

フランス料理っていっぺんに出て来ない。前菜から始まって、おまるみたいなのが付いて「ナニでございます」みたいな。「はよ、全部持って来い！」ここ(喉元)まで出掛かってた。前菜だけ食べて、もう6時過ぎ。もうあかん。

7時から始まるから。「社長、申し訳ありません。もう、行かなあきません。」

「そうか。キリストのために頑張ってきてくれよ。」「ありがとうございます。」走って、駆け込んで。

その時、松原から老夫婦が来られたんです。夜の集會に。

そして、ハッキリと信仰を持たれたのを覚えています。

前菜だけやったけど食べれたし、集會も行くことできたし、しかも「キリストのために頑張れよ」と労いの言葉も頂いて、ほんとに感謝や!と思って。

次の日に本社から電話があって、来週緊急営業會議すると。

「會議の多い会社やな。先週やって今週もかい」と思ったけど、特に高原の問題について討議すると。「えっ?!」

取締役の部長が来て。まず直属の上司が、監督不行き届きでしっかり飛ばされた。

次に私が別室に呼ばれて、「どういふつもりや。自分がどれくらい失礼なことをやったか分かつるんか。わざわざ社長が陣中見舞いに來たんやぞ。それを後ろ足で砂を掛けるように。」「そ、そんなつもりはありません!」「そういうのがキリスト信仰いふんなら、俺はキリストなんか絶対信じないからな。」うわあ…。

「今後、教會の用事と会社の用事がぶつかった時は、無条件で必ず会社を選ぶという念書を書け。」もう念書書いてあるんですよ。

それにサインしろと。これ、サインって出来ますか。

いや、何でもかんでも集會集會って、そんなつもりありませんよ。

でも、何でもかんでも機械的に絶対会社って言うことも出来ない。何が起るか分からへんから。「ちょっとサインは…」と渋ってたら、「キリストが養ってくれますか。会社が雇って、給料払って養ってるんでしょ。キリストと会社とどっちが大事や。」來たー。「キリストです」と言ったら角が立つじゃないですか。

その時パツと教えられたんが、「もし子供が両親から『お父さんとお母さん、どっちが大事?』と聞かれたら、子供は困りませんか。私にとってキリストは父のような存在。会社は母のような存在です。」そしたら、今まで怒ってたんがプツと吹いてね。「おまえ、いつも営業 この調子でやってるんか。」

それまでもう、とっちめたるか!みたいな雰囲気だったのが、ものすごい和やかになって、その念書を私の前で破ったんです。

「そう言ったら、君がどう出るかなと思ってねえ。私も大人気なかったよ。これからは、キリストのことも大事にして頑張ってくれたらいい。その代わり、数字を伸ばしてくれ。営業の世界は売り上げてなんぼや。だれにも文句を言われぬような数字を残せるなら、俺はバックアップするから。」

そんな、数字上がりませんよ。営業マン一人ひとりに担当の会社があるんです。500社くらいずつ。いい成績の営業マンは、よく買ってくれるお客さんをたくさん抱えている。新しく入った営業マンは開拓によって客を育てていかなあかんから、あまり買ってくれないような、買ってくれたとしても一見(いちげん)さんみたいなお客さんしかないんですよ。

それで売り上げ伸ばすなんて、それ無理やと思ったけど「無理です」言えないじゃないですか。「分かりました。しばらく見ていてください。」

その年は全然伸びなかったけど、次の年に支店長が転勤で遠くになったんです。その支店長がいいお客さんを独り占めしてたんですね。それをほぼ全部私に渡して。そしたら、私は何もしてないのにグーンと。何の手柄もありません。何もしてないから。ただ、いいお客さんが転がり込んで来ただけです。それで、自分で言うのもなんでございますが、いわゆるトップセールスマンですよ。私のせいじゃないんです。私のせいじゃないという事件が、後でいくつも出て来るんですけど、それは今日はもう時間切れです。

でも、“社長が来てもキリストを選ぶんやな”ということが伝説になってですね、私がイスラエルに行きたいと言った時は、「高原君は巡礼に行くんだから仕方ないよ」と。10年の勤務中7回もイスラエルに行って、ある年末には3週間休みましたからね。クビにならない。で、私がリストラしたんです。会社を。リストラされる前に、とは言いませんよ。

幼い信仰で、不器用で、無知で、失礼なことをいっばいやらかしてるんですけど、でも、信仰に立った時、知識のキリストではなくて生きたキリストというか。

9 神は、ダニエルが宦官の長の前に恵みとあわれみを受けられるようにされた。

神が恵みとあわれみを受けられるようにされたのなら、ダニエルが少々出来ない人であったとしても問題ありません。

出来る人だから余計にすごいんですが、私のようにダメダメ営業マンであっても、神が恵みとあわれみを受けられるようにされたのなら、それで十分です。

なぜなら、個人の祝福も国家の祝福も神から来るからです。

私は 10 年間その会社に勤務しましたが、それはどんな神学校・聖書学校で学ぶよりも、生きた神様を学ぶ学校でした。
他のものとの取り換えたくないんです。思い出がいっぱいで。

ユダヤ人はバビロンの中で非常に少数派。それと同じように、この日本の中で、本気でキリストを信じる人はめちゃくちゃ少数派かもしれない。
でも、神が恵みとあわれみを受けられるようにされたのなら、それは恐れなくてもよいことではないか。

神様は、小さな信仰でも神に向かって一歩進むなら、必ず応えてくださる方です。
大きな姿見の前で一歩前に進むと、映っている自分も一歩前に来てくれますよね。
神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。
聖書のことばです。

ダニエル書を通して皆さんにぜひお勧めしたいのは、知識の信仰ではなく、ダニエルのように、この方を救い主として信じていただくことです。
そうするなら、今がどんなにどん底でも、神が恵みとあわれみを受けられるようにしてくださるので、最後は笑って終えることができると信じます。
ぜひイエス・キリストを救い主として信じてくださるようにお勧めして終わります。

☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017